

令和6年度第6回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和7年1月29日（水） 午前10時～午後12時10分
2. 開催会場 印西市役所 庁舎別館1階 農業委員会会議室
3. 出席者 志村はるみ委員長職務代理者、市場勝巳委員、岡野誠委員、小林宏委員、矢野眞理委員、藤澤進委員、奥田信康委員、市川弘委員、棚橋明委員（以上9名）
4. 事務局 市民活動推進課・伊藤課長 鈴木課長補佐 本田係長 諫見
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 令和6年度実施（令和5年度採択）の企画提案型協働事業について（報告）
 - (2) 令和6年度企画提案型協働事業の審査について（振り返り）
 - (3) 令和7年度の企画提案型協働事業の実施方針について
 - 3 閉会

7. 会議要旨

(1) 令和6年度実施（令和5年度採択）の企画提案型協働事業について（報告）

《事務局説明》令和6年度実施（令和5年度採択）の企画提案型協働事業の事業進捗について、団体及び担当課から報告を受けた進捗内容を、資料1-1、資料1-2及び当日資料（事前質問及び意見一覧）に基づき説明。

《委員質問意見・検討》

提案番号1「子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング」について

委員：たくさん受付することはいい事だと思う。申込者も評価の一部にいれば、モチベーションが上がるのでは？連続講座を維持する難しさはあると思うので、連続講座の必要性や単発講座にして参加しやすくするなど、工夫が必要であると思う。

提案番号2「地域猫活動普及啓発事業」について

委員：地域猫不妊去勢手術助成金の予算が4月中になくなったというのはどういうことか。目標を立てるのは難しいということだが、予算に対しての目標は立てられると思う。

委員：「地域猫活動」普及啓発事業は、普及啓発事業に重点を置いており、去勢手術の数を増やすことが目的ではないと認識している。地域猫活動サポート事業の中に助成金申請の支援というのがあるが、猫の手術の件数を問うことが目標ではないのではないか。また手術の目標数量を記載しますと回答しているが、事業の趣旨とは異なると思う。

事務局：提案書を確認したところ委員の仰る通り、提案内容としては普及啓発に重点を置いていると考えられます。また確認にはなりますが目標値を明文化したのは今年度提案からになります。昨年度は目標値を明文化できていませんでした。今年度の目標値は普及イベント1回、

地域猫活動サポート事業10件、猫被害改善事業10件と記載があるので、猫の手術件数を目標値にはしていないと考えられます。

委員：資料1-2提案2・Q2の担当課の記載と事業内容の目的とで、解釈が一致していないように思う。提案事業の内容を中心に記載してほしい。

委員：事業費は猫の去勢手術には支出されていないという事でよろしいか。

事務局：仰る通りです。意見を確認させていただくと、「Q2は助成金の話に着目しているが、助成金の支出元は事業費では無いので、そこに着目する必要はない」という内容だと理解しました。こちらの意見を環境保全課の方に伝えさせていただきます。

委員：提案者が、資料作成などの事務作業に不慣れだと感じる。本来の目的である、普及啓発のためのルールブックの作成や、説明会のサポートなど市が協力するのが良いと思う。

委員：担当課に質問・意見は伝えているのか。

事務局：伝えています。

委員：当日資料議題(1)No.9の相談者側の事情とは何か。

事務局：相談者が不適正飼育の現場の住民の場合や、周辺住民の場合もあると認識しています。それ以上のことは確認出来ていません。

委員：こういった事業の数字を、次回からぜひ報告してください。

委員：ホームページからの相談実績の方が、普及啓発事業にとって重要な数字だと思うので、こちらも次回からぜひ報告してください。

委員：当日資料議題(1)No.11の私の質問の趣旨は、普及啓発事業が計画通り実施できるのかというもの。事務作業が不慣れで人員不足であるとする、普及啓発は本来マンパワーがかかるものなので、計画通り実施できるのか懸念がある。先ほど別の委員の意見でもあったが、担当課が手伝ってもいいのでは。

委員：提案時のことを思い返すと、市は猫を捕まえる事に不慣れなので、提案者の知見を活用したいとのことだった。そのノウハウや扱いを他の人もできるようにするのが、普及啓発だと認識している。事業者側だけでなく、市側にも何を残すかが必要だと考える。

委員：普及啓発の事業だけだと認識していたが、どうやら違うのではないかと。自由記入欄を見ると、手術までサポートするというのが念頭にあると考えられる。担当課の自由記入欄を見ても、「助成金ありきで協働事業を組んでいた」とある。事業内容の理解がズレているので、一度整理したほうがいいのではないかと。

委員：当日資料議題(1)No.12について、基本的に目標値を設定できない事業はないと思う。目標値を設定していないから、話が抽象的になるのではないかと。普及活動を何人で実施したかや、何回行ったかなどを記載してほしい。

委員：地域猫と、飼っているといっても良い放し飼い状態の猫とで、きちんと区別はされているか。

「地域猫不妊去勢手術助成金」に、飼い猫を申請するといった虚偽の申請はないか。

事務局：虚偽の申請はないものと認識しております。

委員：そんなに捕まえられないと思う。何頭助成したのか。

事務局：総数は177頭です。

委員：本当に177頭すべてが地域猫なのか、確認したのか。

事務局：担当課の実績の精度まで、把握しておりません。

事務局：なお、飼い猫に助成金を出すことはありません。申請の方法は地域猫の写真を市に提出し、そこから捕獲するという形式です。確かに申請されても、檻に入らない・つかまらないなどの理由で不成立になったり、同じ猫が何回も申請されたりすることはあります。ですが担当課の方でも、地域猫だと確認したうえで助成金を出しております。

委員：この提案2に対する意見は、提案者や担当課の方に伝えていただけるのですか。

事務局：委員会での意見は会議要旨を作成し、担当課の方に共有します。また先ほども申した通り、今年度の事業については目標値を設定しているので、来年度の事業評価の際は目標値についての回答はございます。

委員：最終的な目標は地域猫を減らすことにある。そのために普及啓発することで手術件数が増えることが考えられるが、そこは協働事業の範疇ではなく補助金で対応すると認識している。どこまでが協働事業の範囲なのか、また協働事業の目標と、地域猫全体としての目標を整理する必要がある。担当課からの回答で「地域への理解の熟度や、地域猫への理解度の数値化について、どのような目標及び実績が評価とつながるのかのご提案をいただければ」とある。案として、地域への理解の熟度は、苦情の件数の減少数や講演会の参加者数で計るのはどうか。また住民にアンケートを取り認知度の調査をする、Webの閲覧数、地域メディアに取り上げられた件数などでもいいと思う。地域猫への理解度は、トラブルの減少率や、地域猫活動の協力者数、理解度を図るような調査を実施し正答率を図る、などをしてはどうか。参考までに提案者や担当課にお伝えください。

委員：事業は目的と手段がある。地域猫を減らすことが目的であれば、いろいろな手段がある。活動内容を具体的に上げて、目的と連鎖しているかどうか重要。数値化できないということはないと思う。

事務局：頂いたご提案を会議要旨にまとめ、委員の皆さまに確認を取らせていただいたうえで、提案者や担当課に共有します。

提案番号3「市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系」について

委員：活動回数は成果になるのか。

事務局：実施回数を目標としている事を提案書で見受けられるので、そのうえでの回答と考えます。

委員：ボランティアを募っているけれども、ゴミ拾いやワークショップへの参加応募は少なかったと書いてある。企業とつなぐなど、協働事業としてできるといい。

提案番号4「保育園年長児に向けた運動支援『年長さん思い出プロジェクト』」について

委員：審査をする前提の資料なので、今後は何か具体的なことを書いて下さい。実施内容は良いと思います。

提案番号5「グリーンカーテン大作戦！『CO2を減らそう！ストップ温暖化！』」について

委員：アウトカム評価だけでなく、プロセス（過程）評価も取り入れることで、説得力が生まれると思う。

議題（1）全体を通しての意見

委員：把握はしているのに、数値を記載していない課が多い。

事務局：中間評価なので、まだまとまっていないということもあると思います。そこまで確認や分析ができておらず、申し訳ございません。

委員：おそらくぼんやりした目標はあるが、数値化できていないところが多いのではないか。

事務局：委員の仰る通りだと思います。数値化できない事業はないと思います。ただ先ほども申した通り、昨年度採択の事業は、目標値の設定がない中で今年度実施しています。来年度からは改善されると、考えております。

委員：事業の結果の数値だけでなく、過程の数値も出してほしい。作業に何人関わったかなど。

委員：私は書式の問題だと考える。「遅れが生じている場合は、記入してください」となっているので、遅れが生じていなければ書く必要はない、と捉えることもできる。工夫をしてみてもどうか。また提案者が、過度に目標達成に捕らわれないようにもして頂きたい。例え目標が達成できなくても、その原因の分析ができれば十分であって、目標未達成の事実だけで悪いとなるわけではないと思う。

委員：全体を通じて、目標値と実績値の質問が多く見受けられた。書式を工夫したり、自由記入欄に様々な情報を記載したりすると、委員の評価もしやすい。委員会が知りたい情報が不足していたと思う。どういった指標で成果を図るかは、全ての提案者に通じる問題だと思う。事業を始める前に担当課と提案者の方で目標設定をしておく、事後評価もやりやすいと思う。

（2）令和6年度企画提案型協働事業の審査について（振り返り）

《事務局説明》昨年度との比較やアイデア審査で落選となった団体に対してのアプローチについて、資料2-1、資料2-2及び資料2-3に基づき説明した。また、最終審査で辞退となった事業については、資料2-4に基づき説明。あわせて、当日資料（事前質問及び意見一覧）についても説明した。

《委員質問意見・検討》

事前質問及び意見一覧・議題（2）No2について

委員：いきなり150人に案内するのではなく、スモールスタートしてはどうかと感じた。辞退となった事情について、理解しました。

（3）令和7年度の企画提案型協働事業の実施方針について

《事務局説明》令和7年度の企画提案型事業のスケジュールや、令和7年度の企画提案型協働事業実施要領（案）及び審査における変更案について令和6年度と比較しながら説明。また当日資料（事

前質問及び意見一覧)についても説明した。

《委員質問・検討》

アイデア審査は採択されたが、諸事情により最終審査に至ることができなかった事業について

委員：当日資料議題(3) No. 1について、(3)－1別紙により提案する。市民活動を育成するという意味では、研究の時間を設けることは有意義だと思う。この制度があるといい。

委員：担当課が見つからないとはどういう意味ですか。

事務局：今年度の産前産後ケア INZAI のケースが、近いものだと思います。1年事業が空いてしまったことや、集客ができていないことから、子ども家庭課が「ポピュレーションアプローチ」の事業としては実施できないと回答しました。そして三者協議の終盤に提案者から、「子育て支援センターで事業実施するとなったらどうなるか」といった意見がありました。市民活動推進課としては、「最終審査まで時間がない中で、今から他の担当課とマッチングするのはできません」と回答しました。このような事例が該当すると思われます。

委員：この制度に賛同する。以前企画提案型協働事業コーディネーターを担っていた際、提案者と担当課で話がまとまらず、事業実施できないことがあった。その時にこういった制度があれば、案内することもできたと思う。

委員：この制度を実施した場合の、市側の負担はどれほどのものか。人力的に可能なのか。

事務局：業務の担当が1人でいくつも仕事をもっているのが、印西市役所の現状です。この意見は救済措置が薄いという意見だと認識しました。それ以外の方法も考えられるので、事務局で今後に向けて検討を進めていきたいと思います。何かしらの救済措置は、考えていきたいと思います。

資料3-1 委員会への検討依頼事項

指定テーマにおいて3年以上継続している提案事業のアイデア審査プレゼン免除について

委員：アイデア審査は事業の提案数が少なかった時代に、提案しやすくするために設けられた制度だと理解している。継続提案のものに関しては、アイデア審査免除でもいいのではないか。本格的な事業提案の手がかり、そんな意識付けだと認識している。

委員：指定テーマ型の事業は3年以上継続している場合に、プレゼン免除されるが、なぜ3年なのか。また自由提案型の提案が3回までとなっているのはなぜか。

事務局：指定テーマ型に関しては実際に3年継続されると、事業の実施から評価まで委員会において把握している状態です。そのため3年という期間になっています。

自由提案型の3年までは、市の実施計画が3年ローリングだからです。市の事業は市の実施計画に基づくものなので、3年までとなっています。

委員：事前の回答では指定テーマ型について、現行のままのプレゼン免除を支持すると回答したが、アイデア審査免除でもいいと思う。

指定テーマ型の事業で、3年以上事業継続されている場合のプレゼン免除規定について

委員から以下の2つの案があり。

- ① 現行のプレゼン免除を継続する。(免除チェックシートについては、免除「する」「しない」のみ選択できる形とする)
- ② 現行のプレゼン免除ではなく、アイデア審査免除にする。

事務局：昨年度までのように、アイデア審査のプレゼン免除規定を設けないこともできます。ただその場合提案数が増え、アイデア審査の日程を増やさなければならないという現実的な問題があります。免除規定を設けていれば、プレゼン免除、アイデア審査免除どちらの場合でも、審査時間を削減できます。よろしければこちらの2案で資料を作成し、どちらの案にするか、4月の委員会で諮らせていただこうと思います。

委員：どちらの案でも、「複数提案者がいた場合は免除されない」と記載することは可能ですか。

事務局：可能です。複数提案者がいた場合は、全提案者を委員に見ていただく必要があるので、記載します。

委員：成果報告会を行う予定がないのであれば、申請者に誤解をあたえないような表記にして下さい。

事務局：成果報告会の予定はないので、文言を調整します。また、チェックシートの簡略化についても考えたいと思います。審査の過程を簡略化することで、提案者にわかりやすく説明できるようにしたいと思います。

報告

《事務局説明》資料4に基づいて、市民活動支援センターの次期指定管理者の指定について報告を行った。

以上

令和7年1月29日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は事実と相違ないので、これを承認する。

令和7年2月27日

会議録署名委員 委員長職務代理者 志村 はるみ